

---

# 中二病で何が悪い！

渡辺和樹

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

中二病で何が悪い！

### 【Nコード】

N2368P

### 【作者名】

渡辺和樹

### 【あらすじ】

異世界転送を信じる中二病患者は念願かなって異世界へそこで待ち受けるのは夢か？理想か？それともリアルと何ら変わらない無慈悲な世界なのか？

女の子の一人称が俺だっっていいじゃない！  
言論の自由を忘れるな！

二次元では何が起こきたっっておかしくない！

さあ二次元でフィーバーしようZE

中二病の中二病による中二病のための中二病、物語始まります

## 始まりはお約束（前書き）

中二病患者な中学二年生による中二病物語です

ほとんど趣味で行き当たりばったりなんで文法とか無茶苦茶ですが  
読んでもらえると嬉しいですorz

## 始まりはお約束

いいじゃないか中二病でも。だって俺中学二年生だぜ。今だけ限定だぜ。

なんて他人の前で堂々と言う勇氣はないけれど中二病っていいと思う。

そりゃ無駄にDQN演じちゃってるカスも居るけど特に誰にも迷惑をかけてない。

それに中二病仲間でリアルではありえないようなことをまるでリアルが二次元にでもなったかの様に話すのって楽しいじゃん。

そして何より俺も中二病患者だ。

突然だがこの俺、鷹田雨月（ちなみに。一人称がおかしい？）知るかほつとけ）は現在、連続欠席日数更新中である。

理由なんて特にない。本当に熱出て休んだのがいつの間にか不登校五日目になっていただけだ。

いじめとか大そうな理由がない俺の不登校は結構な天国だ。

共働きの親にまだ具合が悪いと嘘をついて親がいなくなったらスーパー二次元タイムの始まりだ。

まあそろそろバレそうだがな。今日も頭痛いつて言ったらすげえ顔されたし。

それでも何とかバレずに続いた俺の不登校だが、ここに来て問題発生だ。

今日は兼ねてより楽しみにしていたラノベの新刊発売日である。しかし、表向きは風邪で休んでいる俺が本屋に行くわけにはいかない。もし同級生に見つかったら何て言われるか……

「面倒くせえ」

それでも今が学校の授業中ということもあつて数分後には愛車（注：痛車じゃねえ）であるG I A N T製のMTBマウンテンバイクにまたがり本屋へと俺はこぎ出すのだった。

MTBに乗って走つてるといつもいつの間にか何かしら考えている。それこそリアルのことだったりすげえ中二乙な事だったり。

そしていつも思うんだ。このリアルはつまんねえ面白くねえって俺は二次元を愛してる。二次元に行けるなら死んでもいい！むしろ死んで二次元逝く！  
それぐらいに。

だから俺は異世界転送系の話が好きだ。異世界転送系の話を読んできるといつか自分もこんなつまらない世界からおさらばして二次元に行けるんじゃないかって思うんだ。

だからなのかな。

俺がスピードを出して急な坂を下つていたとき、いかにも異世界への扉って感じの空間の歪みが目の前に現れても少しも恐れを抱かず自分から突っ込んでいったのは。

歪みの中を通った記憶も感覚も無いから多分一瞬だったんだろう。俺はMTBにまたがったままだったからまるで俺が転送されたんじゃないってこの場所が転送されたみたいだった。

要はお約束の気づいたらここに居たってやつ。お約束のここは森の中。見渡す限り木しかない、わけじゃない。湖？池？とりあえず沼ではなさそうな水場がある。

「あつ、ラノベ……」

異世界転送はいいけれどせっかく家出てラノベ買いに行こうとしたのにこれじゃ買うか買わないか迷ってた俺が馬鹿みたいだ。

ともあれせっかく来れた異世界だ。とりあえず自転車降りた俺は周囲散策。迷いそうだな。なんかナビゲーターがこの世界の住民は居ないのか。中途半端にお約束守りやがってこん畜生め。なんて事を思ってたら後ろの茂みがガサゴソ。

出て来たのは狼。中二病風に白銀の狼って言いたいけど残念ながらこいつは灰色。めっちゃこつち見て唸ってくるのだが……どうしようすげえ可愛い。変な萌キャラよりずっと萌えるわ。なんかもう押し倒して撫でくりまわしたい。家で犬を四匹飼っている俺にとって狼は可愛いし格好いい。そんな二冠王なわけだ。

しかし現実には厳しい。俺はこんなにも狼を愛しているのに狼のやつは思いつきり臨戦モード。俺涙目。

二次元キャラならここで魔法とか使って一瞬で倒しちゃうんだろうな。

こんな事思ったからにや中二病スイッチONだぜ。今だ臨戦モードで唸り声上げてる狼を指差しながら俺はつぶやく。

「……紅蓮大砲」

名前に意味なんかありやしない。パツと思いついたのがこれだった。自分でもひどいネーミングセンスだと思うよ。

でもネーミングセンスなんかよりもっとひどい事が起こったよ。指から火が出た。まるで空中に垂らして固定したガソリンに火をつけたみたい指から狼まで一直線。

狼はさすが獣、一瞬の出来事にこれまた一瞬で反応して後ろに跳び下がる。でも避けきれず足に当たった。一瞬で燃え広がるなんて事

はないけれど狼の右前足は火に包まれた。

さすがに狼も驚いたらしい。錯乱したかのように暴れている。

対する俺も気が気じゃなかった。指から火が出ただけでなく恐らくそのへんのリア充よりも俺が大切に思っているであろう狼を傷つけてしまったのだ。

何かに放火したことなんて無いからハッキリいってパニック状態。

「何やってんだ馬鹿！」

鋭い声が後ろから飛んでくる。ついでに何か固い物が頭に飛んできた。

「痛つてえ」

後頭部の痛みに耐え下を向いていた俺が顔を上げるとそこには俺と同じ年くらいの女子二人。

女子Aは何故か足の火が消えている狼を撫でくりまわしている。

「動物虐待は感心しない」

狼を撫でくりまわしていない方女子A、声からして俺に馬鹿つて言ったほうじゃなさそうだ。

眼鏡かけて学級委員長とかやってそうなやつ。第一印象を聞いたらほぼ全員がそう答えそうなやつだ。

実際眼鏡はかけてるがな。すげえ変わった技術の実習とかで使いそうなプラスチック製の。

そして何故かどっかの学校の制服着てやがる。コスプレではなさそうだ。

「っ虐待なんかしてねえよ、そいつ指差したらいきなり指から火出



「たんだよ」

すると今度は狼撫でくりまわしている女子Bが反応。

「指から火つていうとこんな感じかい？」

俺のこと馬鹿つて言ったやつだ。

だが今はそんな事どうでもいい。指地面に向けたらいきなりそいつの指から今度は水が出てきた。

(。・111)

俺今こんな顔してるぜ。

「ここは二次元かなんかですかい？」

思わず聞いたよ。異次元転送とか指から火やら水やら。

俺リア充だったら正気失ってたよ。

そしたらこの女子二人顔見合わせて笑い出したよ。

「なるほど君も中二病患者な訳だ。だとするとそれは君のだ」

君もつて言ったよね君もつて女子二人とも中二病ですか？

女子Bが俺のこといや俺の後ろを指差しながら言った後ろを振り返ったら恐らく俺を撲殺未遂の被害者に追い込んだ凶器であろう10cm四方の立方体が転がってたよ。見たところ木製だけど結構痛かったぞ。木ばねえ。

「俺のつてどういことさ」

俺は凶器を拾い上げながら女子Bに聞いた。うわ女子Bまた狼撫で

くりまわしてるよ。羨ましい。

つかミスった。初対面用の一人称どこいったあ。

「えーと説明ダルいな。おい翡翠説明してやれよ。そういうの得意だろ」

女子Bが説明放棄。つか女子A翡翠って本名だったら尊敬するわ。

「説明してやってもいいが、とりあえずお前その箱開ける」

「何が出てクルンデスカ」

「んー多分メモ帳の類」

俺がビビりになってたら女子B教えてくれたぞ。つか何故分かるし。だが信じるぞ。

マジ人を信じるなんて愚かな（ryとかいいからな。頼むぞ。

眼を閉じて立方体の割れ目を左右に引っ張ると……

t o b e c o n t i n u e d

## 箱の中には某殺人ノートもどき

中二病には三通りある！

DQN系とサブカル系と邪気眼系だ！

それで？

いやだからさ俺様が中二病患者である事は太古の昔から皆、もちろんお前も知ってるだろ？

んで俺はこの三通りの中のどれに属してるかなって思ったわけなんですね、はい。

どれって全部だろお前。

最近誰にでも絡んでくし、いきなり人のこと見下した発言するし、かと思えば僕は神だ！とか言い出すし。

よかったなお前は真の中二病患者だ。

褒められた気がせんぞ。

褒めてないからな。

なるほど貴様は確かに二次元を愛する者のようだな。

さすがこの世界を訪れただけの事はある。

二次元を愛しているならば他は何もいらん。  
表の世界……リアル世界より訪れし鷹田雨月よ、汝に我が  
炎をそしてこの世界を操り神となる力を与えよう。

輪郭の定まらない音が聞こえる。  
いや、話し声だ。若い女が二人。  
夢と現実で漂っていた意識が浮上を開始する。

「グッドモーニング」

すっげえ発音の悪い英語と共に眼を開けると翡翠じゃない方の顔ど  
アップ。

どっちが女子AかBかなんて忘却という名の渦に飲み込まれたね。

「近い。つか、嘘乙」

誰ですかメモ帳が出てくるって言ったの。なんなの箱開けたら意識  
BANってどんなビックリ箱だよ！

嘘つくとか泥棒の始まりって幼稚園のころに教わらなかったの？も  
ーこれだからゆとりは。俺もゆとりだけど。

「いきなり人を嘘つき呼ばわりなんてヒドイなあ、ちゃんとメモ帳  
入ってたじゃん」

指差す先にはなるほど確かにメモ帳が落ちてる。某殺人ノートのよ  
うに黒い表紙。  
危険の匂いしかないね。

「箱から黒いメモ帳、これはなんのフラグですか？」

「お前、なんも見なかったのか？夢で変なこと言われたら。能力覚醒しそうなセリフ」

あら居たんですか翡翠さん。ずっと黙ってたんで忘れてましたよ。そう言われると変な声聞いたような……夢の記憶って起きると忘れかけるから曖昧だぜ。思い出した。

「『我が炎をそしてこの世界を操り神となる力』それを与えようってくそ低い声で言われた。炎はさっき手から出たやつだよ。ウハッ興奮してきた！何この二次元冒頭」

「私は水だった。翡翠は鉄らしいね」

鉄だ、と？おかしいだろ俺が火で、水ときたらもう一人は木でしょ普通。

御三家を王道を舐めんよ！

そんな怒りも今は置いておこう。それよりも「この世界を操り神となる力」が気になる。

「この世界を操り神となる力は？まさかこのメモ帳が神になる力ってんじゃないだろう？」

「そのまさかなんだよねーこれがまた。メモ帳がホントに当たるとは思わなかったけど私は世界を創り神となる力でこの万年筆だよ」

そういつて見せてくれたペンはどこにでも、いやどこにでもないか万年筆自体。

文房具店にならありそうなくありふれた万年筆。  
まだ俺の某殺人ノートもどきの方がカッコいいぜ。

「翡翠は？」

あまりに無口な翡翠に思わず聞いちゃったぜ。つか思わず翡翠とか  
言っちゃったよ！

初対面くせに馴れ馴れしいやつだよ。嫌なやつだよ。嫌われるよ！

「世界を壊し神となる力」

そんな俺の脳内自己嫌悪なんかいざ知らず淡々と答える翡翠。  
クーデレなのカナ？まだデレてないけど。

翡翠が差し出した手の上にはこれまたありふれた消しゴム一個。

やっぱ俺の某殺人ノートもどきの方が（ry  
それよりも何よりもさ、

「みんな神かよ。つかさこの世界っていうけどやっぱ異世界って認  
識でいいのか？俺たちの力は異世界の影響ってことで」

「さあ？」

「知らん」

あり？今まで俺の問いにはハッキリ答えてくれたお二方なのに曖昧  
な解答ですなえ。

「つかお二方はこの世界の人じゃないのか？俺と同じく異世界転送  
食らったのか」

「転送食らったつばいよ。私たちもつい数時間前に転送されたばっかだしねえ。箱開けて意識飛んでて」

おージーザス我らをお導き下さい。って俺神になる力あるから俺が神なのか？

「話しの途中で悪いがお前らいい加減名前教える。自分たちの置かれた状況が理解できてなのに互いのことも知らないなど辛すぎる」

それもそうだ。自己紹介は人間関係の第一歩だからな。

これからどうするかなんて適当に決めればいいさ。

神の力を持つてすればこの程度の苦難たいしたことないだろうし。

取り敢えず某殺人ノート似のメモ帳を回収し着席。

席はないから地面に直だ。まあ草も生えてるしそんなにケツは汚れんだろう。

さつき意識飛んでたときなんか寝っ転がってたしな。

「んじゃあ、私からねラリー。ちなみにHNだからね、本名じゃないよ。せっかく異次元に来れたのに本名じゃ萎えるからみんなHNで名乗ろうよ」

「別に構わないがそれだと翡翠だぞ。それがセイユ。どっちか好きな方選べ」

翡翠ってやっぱHNか。べ、別に残念なんて思ってないんだから！勘違い……止めよう。

「次、雨月ね。雨月のHNは？」

ちよつと待て。

「なんで俺の名前知ってるんだYO」

驚いてテンションぶっ壊れたぞ。

「これ」

指示語二文字で答えてくれた翡翠orセイユ。翡翠だとありきたりだからセイユで呼ぼう。

セイユの右手には俺の財布。左手には財布に入れてた保険証。何時の間に！

「寝てる間に見させてもらった」

えっ何それ犯罪。俺啞然。(。 。 111)

「鷹田雨月、H8・9・10生まれ。A型」

「いやいやいや何いきなり個人情報読み上げてんだよ。返せバカ」

セイユから没収。

「で、うーちゃんのHNは？」

うーちゃんって誰ですかラリーさん。  
とでも顔に書いてあったのだろうか。

「いや雨月だからうーちゃんそのまんまだね」



自分で言ったよこの人。

「HN覚えるの怠いしもうお前は本名でいいよ」

俺の呼び名だけ本名に決定しちゃったよ。世の中不公平だね。

どうしよう。神よ力を持ってしてもこの二人は手強いよ。

どうなる俺の二次元渡航！

t o b e c o n t i n u e d

箱の中には某殺人ノートもどき(後書き)

前の投稿からすごい時間が空いてしまいましたorz  
これからはもっと早く投稿します(多分

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2368p/>

---

中二病で何が悪い！

2011年10月6日20時44分発行